躍動する医学生

アジア医学生会議と主な活動

ASIAN BROTHERS

友との再会。笑顔で歩み寄り握手を交す。矢継ぎ早の質問。"How are you? Your families? Friends? How is your study?"「元気だった？　家族は？　友達は？　毎日どうしてる？　恋人できた？　旅行はどうだった？」いくら話しても尽きることがない。

そして，新しい友との出会い。初めは遠慮がちに。しかし，何分もしないうちに，打ち解け話が弾む。まわりに人が集まり，彼らに友人を紹介する。さっき出会ったばかりなのに，名前，出身，趣味までもが，スラスラ口から出る。誰からともなく，自己紹介が始まる。皮膚の色，体つき，奇妙なアクセント。ある者は似ているが，全く対照的な者達もいる。しかし，目の輝きは同じだ。

私達の出会いは，このようにして始まる。これが，アジア医学生会議である。

アジア医学生会議（Asian Medical Students' Conference, AMSC）は，アジアの医学生がイデオロギーにとらわれず，自由な立場で共通の問題を考え，より深い相互理解を求めて，毎年1回開催されている。この会議は，カンボジア難民問題が深刻になっていた1980年に，日本人学生の提案により，カンボジアの隣接国であるタイの首都バンコクにおいて，インド・シンガポールを含めた4カ国の参加によって開催された。そして，会議の母体として，Asian Medical Students' Association の設立が提唱され，日本側主催団体として，全日本医学生アジア連絡協議会（AMSA, Japan）が設けられたのである。

連絡協議会は，資金難に苦しみながら，活発に活動している。主なものを掲げると，

①アジア医学生会議参加募集と直前合宿

②アジア4カ国（中華民国（台湾），フィリピン，タイ，インドにおける体験学習フィールドスタディ主催）

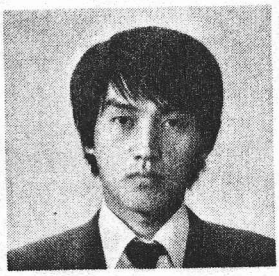
③アジアの医学生受け入れエクスチェンジプログラム

④医学生会議を日本で紹介し，全体活動の方向づけをする Summit Meeting の主催

⑤機関誌，報告書の発行および協議会の総会開催などである。

昨年の第6回アジア医学生会議

昨年の第6回アジア医学生会議は，7月27日より8月2日まで，フィリピン，マニラ市のライフ大学で行なわれた。参加国は，日本，フィリピンの他，中華民国（台湾），香港，シンガポール，マレーシア，インドネシア，タイ，そしてクウェートの9カ国である。日本からは，14大学から31名が参加した。テーマは，「人口問題における青年の役割，アジアの視点から」であった。詳しくは，協議会発行の報告書* にまかせ，ここでは，かいつまんで述べてみる。



●廣田直敷氏，全日本医学生アジア連絡協議会前代表。産業医大6年。

プログラムは，来賓を招いての開会式，各国のテーマに関する発表，小グループに分れての討論，会則の審議，人口問題と関わりのある施設訪問と，文化交流会が主なものである。

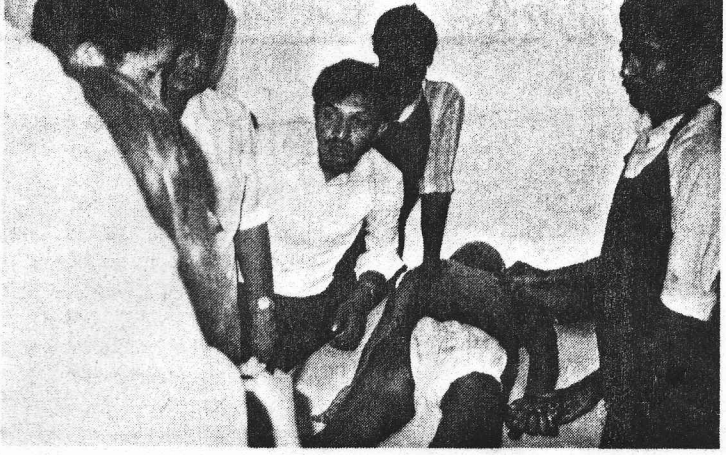
各国の事情。それは，各参加者の表情ほどにバラエティに富んでいる。人口の抑制に成功し，今や人口の質（老人問題，核家族 etc）の問題をかかえる日本。スラム化と低年齢層の出産増加により，人口爆発におびえるフィリピン。豊富な資源を背景に，開発の為の人口増加を計画するマレーシア。ちょっと掲げてもこれほどまでに異なるのである。

人口問題は，医学のみならず，政治・経済，宗教，教育等を含んだ大きな問題である。発表後の小グループ討論では，1人1人が，正に各国の代表となり，言語の障壁を乗り越え不充分な知識ながら懸命に説明した。立往生すれば，他の国の学生から，次々に助け舟が飛び出し，またそれに対する質問も出て，論議は白熱化し沸騰した。

私達の会議に結論はない。あるものは互いの違いを認識し，理解しようとする姿勢を学ぶことである。彼らのことをもっと知りたいと思い，自分達のことを教えたいとする願いが推進力となる。そして，その先にあるものが，未来の医師としての像であり，祖国と同胞，アジアにかかる友情のネットワークである。

フィールド・スタディは，そんな各国の事情を，その場で体験しようというプログラムである。そして，エクスチェンジは，彼らに

●アジア医学生会議，日本側発表。昭和大　本田，秋田大　江上，司会は台湾大　李瑞民。1985年8月29日，マニラ，ライフ大学。



●インド・フィールド・スタディ。1985年8月7日，Udupi Ayurvedic College にて。アユルベーダーの治療中。

日本の医療を紹介し，彼らの目を通して，日本の医療そして社会を考える場となる。

台湾フィールド；初めての試みであり，実習は行なわず，現地の友人の案内で施設見学を行なった。

フィリピンフィールド；フィリピン大学の地域医療モデル地区であるラグナ州のCCHP（包括的地域医療計画）を訪れ，民家に宿泊し，現地の学生と調査を行なった。

タイフィールド；バンコク郊外の保健所，ろう学校，地方病院を訪れ，マヒドン大学の学生と地域医療研修を行なった。

インドフィールド；インド南部ウドゥピー市のアユルベーダー医科大学にて，インド伝統医学アユルベーダーの講義を受け，施設見学を行なった。

何故，アジアに研修に？

「何故，アジアに研修に行くのか」とよく友人知人に質問される。「開発途上国にあるのは，既に日本が解決した感染症と栄養不良そして貧困ではないか」，「そんな所へ行って病気をもらってきたらどうするのか」と言われる。

確かに病気はイヤである。しかし，医師になろうとする者が，病気を恐れ比較的，清潔な所を選んで安穏と過そうとは，どういうことか。感染症，寄生虫など，今は減少したが依然重要な疾患であることに変わりはない。栄養不良，貧困にしろ，これから何が起こって私達の身に降りかかるやもしれないのだ。

そして，何よりも大切なのは，道具も人手も金も薬もないところで，一生懸命につくしている医師，看護婦，保健婦たちと，出会えることである。そして，そこで生きている人々と話し，自分の置かれた立場を考え，これからの糧とするのである。

私達は恵まれている。だから，無駄も多い。途上国では，医療資源が不足している。だから頭を使い，手を使い，私達と違った方法で全力を尽さなければならない。学ぶべきものは多い。一見すると，処置など杜撰であり，巷にはまがいものが溢れている。批判は簡単だが，その底を流れているものに目を凝らすと，案外私達がもっていないもの，失なわれた何かを見出すことができるのではないか。

フィールド・スタディは，立場を相手の側に置いて考える場である。言葉が通じず，与える物も技術もない自己を発見し，情けなくなる時もある。しかし，彼らと寝食を共にし胸襟を開くことにより，思いがけない心の友と，今まで知らなかった自分に巡りあうこともできる。

サミット・ミーティングは，一昨年より始まった。Association の会則と，新聞発刊，会議の事前打ち合わせ，日本が2カ国間で行なっているフィールド・スタディに第3国を入れるための話し合いを目的としていた。しかし，その年はうまく行かず，昨年はそれらの懸案解決と，日本国内の学生にこの活動を知ってもらうために，12月25日から30日まで，岡山市，大分県九重，北九州市，福岡市と移動しながら，活動報告，市中病院の見学，公開討論会，集中合宿などを行なった。参加者は，中華民国（国立台湾大，高雄医学院），フィリピン（サントトーマス大，マニラ市立大），シンガポール，香港，インドネシア，タイ（マヒドン大）から10名と，国内11大学より34名であった。

問題は一部を除いて解決を見た。そしてそれ以上に，私達が主催者として得た経験は，これから本会議誘致の試金石として大きく新聞，ラジオ，テレビを通じて一般の人々にアピールできたことも思わぬ成果であった。宣伝にのみ力を入れ，実質が伴わないようでは困るが，自分達の活動を世に問い，それによって新しい人の輪ができれば，より大きな協力関係を築くことができる。特に，岡山市内の開業医の先生方，岡山大，産業医大，福岡大，長崎大の先生方，北九州市内のライオンズクラブを始めとする一般の人達の暖かい支援が何よりもうれしかった。

最後に，このミーティングに参加したフィリピンのジョセフ君の別れの手紙を示したい。この活動に興味のある方は，下記の所に連絡を下さい。

Friends,

Thank you very much for warm hospitality and time you've given us to make our stay in your country a very memorable one.

It's ironical but its happening. Why do things have always to end? This is the time when we have just beginning to know each other. But what can we do? Our commitments in our country dictate us to leave your country that early.

Well anyway, I hope to see you soon. I hope I could still visit your country in the near future.

Try to take care of AMSA. We need people like you. We from the developing countries are really happy that there are still people who really care and still remember their Asian brothers.

Again, thank you very much. What you have done is praised. Thanks also to Taka, Mami and all the Japanese delegates.

Jojo

* '85第6回アジア医学生会議報告書，第2回アジア医学生会議サミット報告書（2冊セットで¥1,500，送料込）

申込み先；〒814-01 福岡市 城南区 七隈8丁目1—28 梅野ビル401号 岩永資隆

'86第7回会議・（香港）7月上旬～8月下旬。フィールドスタディ 問い合わせ先；〒010 秋田市広面字上手下45 コーポわかくさ1号津曲兼司 ☎（0188）32—2724